



CONTENTS

新型コロナウイルス感染拡大防止策に伴う活動自粛のため、2頁の掲載となります。

- 1頁・介護報酬改定 ～科学的介護の推進～
 2頁・コロナ禍でのアクティビティ
 ～入居者様に充実した毎日を送っていただくために～
 2頁・ひなまつり
 ～静かに熱く楽しんでいただきました～

第130号 ふれあいの里

〒632-0001 天理市中之庄町470 TEL.0743-65-1771(代)

発行責任者: 鉄村 信治

編集: ふれあいの里広報委員会

<https://www.fureai-net.com/>



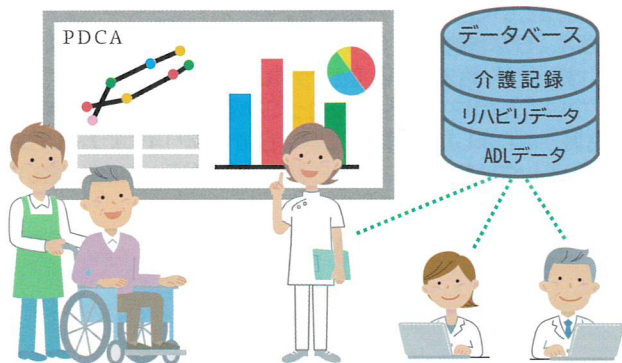
介護報酬改定

～科学的介護の推進～



2021年4月に実施される介護報酬改定では、科学的介護のためのデータベース「LIFE」の本格稼働が始まります。

LIFEとは「Long-term care Information system For Evidence」の頭文字を取ったもので、日本語では「科学的介護情報システム」と言い、政府・厚労省が重視する自立支援・重度化防止を目的として、より効果のある介護サービスを実現すべく導入される大規模データベースのことです。LIFEに蓄積されるのは利用者の状態や各種サービス内容に関する膨大な情報で、収集されたデータはフィードバックへの活用やエビデンスの確立などに役立てられます。LIFEが介護サービスに活用されることで、PDCAサイクル・ケア（PDCAとはPlan[計画]、Do[実行]、Check[評価]、Action[改善]のこと）の質が大きく向上するとも言われています。



他にも介護分野にはLIFEと同様の大規模データベースとして、いわゆる「介護DB(介護保険総合データベース)」があります。こちらは主として、要介護認定やレセプトに関する情報を収集するシステムとなり、新年度からはLIFEと介護DBが科学的介護を実現するための両輪として運用されることになっています。

そのLIFEのスタートに合わせて、新年度から「科学的介護

推進体制加算」が導入されます。この加算の算定要件は大きく分けて2つです。

1つは、全利用者の心身に関する基本情報をLIFEのデータベースに提供すること。もう1つは、LIFEから得られるフィードバックを活用すること。データベースの情報をもとにサービス内容を検証し、ケアプラン、サービス計画を見直すなど、PDCAサイクルを回すことで加算が認められます。

そもそも、LIFEが新設され、それにあわせて新たな加算が導入されることが決まった背景には、国・厚労省が推し進めている「科学的介護」の考え方があります。科学的介護とは、ビッグデータとして蓄積された利用者情報の活用によってサービス利用の成果を予測することで、要介護者の状態像に合ったサービス提供を行うことです。

これまで介護現場では、職員の経験に多く依存する形で介護サービスが行われてきました。しかし、科学的介護が行われることで、データベースに基づくエビデンスによる、より利用者の状態に適した合理的な介護サービスをできるようにとなると考えられています。

このような科学的介護が目的としているのは「自立支援の促進」と「技術革新の応用」です。自立支援の促進という点では、科学的根拠に基づくサービスを実施することで、健康寿命の延伸を目指します。また、技術革新の応用という点では、ロボットやセンサーなど人手を補う最新技術を積極的に導入することで、介護分野における人材不足を解消することが目標です。この健康寿命の延伸と介護人材の不足解消は、科学的介護の導入による大きなメリットと言われています。

LIFEがスタートすることで、さらなる前進が期待されています。



特別養護老人ホーム清寿苑
施設長 橋本 光司

健和会理念

私達は、医療がサービス業であることを認識し、以下の目標を掲げる。

- 1・患者さん中心の医療・看護・介護
- 2・地域社会への貢献
- 3・研究心と向上心を持つ
- 4・和を尊ぶ

健和会基本方針

- 1・私たちふれあいの里の職員はいつも患者さんの意思を尊重し権利を遵守して、患者さん中心の医療、看護、介護を実践します。患者さんのADL(日常生活動作)改善とQOL(生活の質)向上のため、積極的にリハビリテーションに取り組みます。
- 2・私たちは、他の医療機関や地域の人々と連携して地域社会に貢献し、社会に開かれた施設を目指します。
- 3・私たちは患者さんから学ぶという初心を忘れず、より良い医療、看護、介護を提供できるように常に研鑽し探究する精神を持ち続けます。
- 4・私たちは力を合わせてチーム医療の遂行のために努力します。

コロナ禍でのアクティビティ ～入居者様に充実した毎日を送っていただくために～

桜の鮮やかな季節となり、2021年度が始まりました。相変わらずテレビや新聞、ネットニュースなどでもコロナの話題を聞かない日はありません。ワクチン接種が始まっているとはいえ、先の見えない状況であることに変わりはなく、入居者様とお花見やお祭りなどの行事を心から楽しめる日が来るのは、まだまだ先のこともかもしれません。

さて、2020年度を振り返るとコロナ色的一年だったように思います。そんな中、ケアハウスふる里では、毎週木曜日、レクリエーション、行事、わくわくクラブ、筆クラブと週替わりの企画で入居者様に楽しんでいただいています。コロナ感染拡大の中、自粛すべきかと迷ったこともありましたが、外出の自粛、面会の自粛、その上入居者様の楽しみも奪ってしまうことは避けるべきであると考え、アクティビティを継続してきました。幸いにもふる里のホールは吹き抜けとなっており、広々とした空間を確保できます。もちろん、アクリル板のパーテーションも設置し、飛沫防止対策も行っています。

昨年度は最初の緊急事態宣言解除の後、8月の縁日、10月の運動会、12月のハンドベル、2月の節分行事などを行いました。新しい生活スタイルを取り入れ、縁日や運動会、節分行事も職員が順次ホールへ誘導する形で、密を避けて行いました。

縁日を楽しんでおられる入居者様の様子をプリントしたもので、写真入りの年賀状などを家族様に送らせていただくことで、入



居者様の様子を知ることができてよかったと喜んでいただきました。

最近では、桜の花の壁飾りや、手作りおやつを楽しんでいただいています。コロナによる様々な制限が続く中、少しでも楽しい時間が過ごせるよう2021年度もふる里職員一同で取り組んでいきます。

(ケアハウスふる里 施設長 松原 由)

ひなまつり

～静かに熱く楽しんでいただきました～



『灯りをつけましょ♪ぼんぼりに～♪』と、いつもなら大声でワイワイと行事を行っているところですが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、そうもいきません。

毎年、ひなまつりには利用者様と一緒に手作りのおやつを作り、皆で集まって写真を撮り、二人羽織りをして皆で笑うといった行事を恒例としていました。クリスマスやハロウィンと違って日本古来の行事のため、皆で楽しめた行事でした。しかし、今年は密を避けなければならないため、できません。そこで、いつもの行事は中止とし、静かに感じていただくひなまつりレクリエーションとしました。

騒がずに、密着せずにできるものをと考え、日々のレクリエーションから何かないかと考えた結果、皆様が個々に集中して行うことができ、さらにひなまつりと関連づけし、「釣り」に決定しました。名付けて『ひなま釣り』です。

「ひなま釣りー 開始!」の合図とともに釣りのレクリエーションが

始まりました。釣るのはひなまつりに関連した絵です。その裏に点数が書いてあり、点数を競っていくというルールです。

初めは、「ひなま釣りー!」という掛け声の利用者様たちは失笑されていましたが、始めてみると「うまいこと釣れへん!」「どこにクリップついてんの!?!」「そんなに釣ってするいわー!」など白熱した釣り合戦となりました。時期的に寒い日ではありましたが、いつも行っているレクリエーションより白熱し、皆様お互いに競い合いながら、熱戦が繰り広げられました。



これまでのひなまつりと比べると笑いは少なかったかもしれませんが、熱いひなまつりになったと思います。正直、盛り上がりにかけるひなまつりになるかと不安でしたが、いつもと同じように楽しんでいただき、職員一同ほっと胸をなでおろしました。

まだまだ新型コロナウイルスがおさまらず、何かと制限が多いこのご時世ですが、少しでも季節感を感じてもらえるよう工夫をして行事を行い、利用者の皆様に喜んでいただけたらと思います。

(ならふくじゅ荘 デイクア 松木 良治・山澤 一壽)

編集後記

春の日差しがやわらかく降り注ぎ、桜が満開を迎え、様々な草花が芽を出し始める季節となりました。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

先日、首都圏の緊急事態宣言が解除されましたが、テレビや新聞でも毎日のように新型コロナウイルスの話題が報道され、また新たに変異株が確認されるなど、まだまだ予断を許さない状況が続いています。なかなか収束の目処が立たず、気分の晴れない日々が続きますが、これまで通り手洗いうがいの徹底をお願いします。

これから徐々に暖かい日が増えてまいります、まだまだ朝夕の寒暖の差が大きい日が続きます。体調に気をつけながら毎日をお過ごしください。

(広報委員長 橋本 重之)

